

あごもっとうべり 2016年11月号第32号

平戸市民病院

11月は研修医3名に加え、歯科プログラムの先生も1名加わり、和気あいあいと充実し楽しい1ヵ月でした。急性期医療のみに携わってきた私達にとって、この1ヵ月は初めての経験



に溢れていました。自分たちが医療と考えていた急性期は人生のごく一瞬であり、それ以外の大半の人々は健康／慢性期であること。そしてその人々が急性期へ移行しないための健診や日々の診療(外来だけでなく訪問診療や離島医療なども含む)が急性期医療と同じくらい必要であり、重要なことであると実感しました。また、患者さんと医療スタッフの温かい

関係性には幾度となくハッとさせられ、このような関係性を私達の病院でも実現できたらと強く思いました。平戸の方々の温かさや美味しいごはんにも囲まれ、頭も心もおなかも大きく成長しました。ありがとうございました。



天野 明津紗(北里大学病院)
井出 祐季子(神鋼記念病院)
西山 樹(横浜労災病院)

生月病院

先生方やスタッフの皆さん、また生月の人々の温かさに触れ、目の前に広がる大自然に癒され、美味しいものにお腹を満たされ、生月(いきつき)の島名の由来のようにホッと息をつけたとともに、大変充実した1ヶ月でした。日々の研修では、急性期から慢性期まで幅広い疾患を経験し、往診、予防接種、健診など普段の研修では経験できないことに関わることができ、地域医療について深く学ぶことができました。また、病院スタッフの方々と患者さんとの温かい信頼関係や、患者さんたちの活力ある姿がとても印象的でした。1ヶ月という短い期間でしたが、本当にありがとうございました。この経験を活かして今後も頑張りたいと思います。



大石 龍之介(静岡済生会総合病院)
杉川 知香(長崎医療センター)



柿添病院

訪問リハや5歳児検診など普段できない貴重な経験をしました。また、それぞれの専門のみではなく、専門外の分野の知識も必要となり総合診療が非常に大事だということに気づかされました。手技に関しても内視鏡やエコー、さらに手術も必要で、私達も将来は様々な手技ができるように努力していきます。

また、柿添病院は平戸の市街地にあり、病院から徒歩圏内に観光スポットが点在しており、休日は平戸内を観光しました。先生方には平戸のレストランに連れて行って頂き、また佐世保や博多、生月や大島等の離島まで出掛けることもありました。病院外の生活も充実していて、飽きることのない1ヵ月間でした。

裁原 彩(東京大学附属病院)
謝 柯智(九州中央病院)

青洲会病院

田平・平戸の地域に根付いた医療を実感できた1ヵ月となりました。外来診療では、通院患者の健康をサポートするだけでなく、家族や農作業・漁業の話なども交えて、地元の方々の生活に密着した診療が印象的でした。急性期をすぎた患者支援も充実しており、訪問診療やリハなど通じ多くのスタッフが連携して、病気とつきあっていく患者の支えとなるような医療を築いていました。いつも訪問や外来を担当している医療者を見るたびに、患者さん笑みを浮かべ話をする姿が、地域のパートナーとして病院が機能している証拠と感じました。このような地域医療の真髄を体感でき、また多くの患者さんと話してふれあい、その生活を見守っていく医療を実践でき、地域医療の醍醐味を感じた素晴らしい経験となりました。



田中 拓(横浜労災病院)

